

令和7年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中南小学校	対象となる主な学年	5・6学年
取組事例名	「南っこの願いでつなぐ学校づくり」		

◆ 児童の実態及び取組を通して育てたい児童像

児童の実態	取組を通して育てたい児童像
素直で明るく、色々な行事や活動などに興味をもって参加する児童が多いが、自分たちが主体となって行動し学校をつくっていかうとする意識や、様々な課題を自分事としてとらえ課題解決に向かおうとせず他人任せになっている児童も少なくない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人間関係形成…互いの良さや違いを認め合い、他者と協動的に関わろうとする。</li> <li>○社会参画…「平和で楽しい学年や学校は自分たちの力でつくっていける」と気付き、自ら行動しようとする。</li> <li>○自己実現…平和な学校をつくるために、今の自分にできることを考えて実践する。</li> </ul>



◆ 取組の具体的内容

取組を実施する意図及びねらい

学校教育目標を「自分が学ぶ みんなと学ぶ」とし、「自ら課題を見つけ、自分の考えをもち、協働し、解決する力」の育成を目指した教育活動を行っている。児童自らが学校や自分たちの課題に気付き解決しようとする行動することにより学校は楽しくなることを実感させ、学校生活をより良くするために主体的に行動しようとする力を高める。

取組の流れ・創意工夫・児童の変容等

〈5年生12月〜〉 6年生からの委員会紹介、5年生新執行部選挙

★6年生とともに委員会活動を行い、6年生の願いや仕事内容を受け継ぎながら次期リーダーとなって、自分たちが学校を動かし支えていくという意識が高まった。

〈4月〜〉 各委員会では各月の生活目標の決定、願いに基づき各委員会の特色を生かした取組の企画・実行

(縦割り班遊び、トッピーキャンペーン(縦割り活動)、運動チャレンジ、読書祭り等)

各委員会で取組を計画・実施→振り返りと課題の全校共有、取組の改善→更なる取組実施 ※PDCA

★南小の実態と願いから自分たちにできることを話し合い、考えた取組を6年生自ら企画・運営したことで、自分事と考え主体的に行動したり下級生へ協動的に関わったりする姿が増えた。また、活動内での行動の変容や成長を教員が継続して価値付けたことで意欲が高まった。

【自己決定の場の提供、共感的な人間関係の育成】



〈執行部企画〉

(9月〜2月) 挨拶フラワーキャンペーン

毎月1週間挨拶Weekを設定し挨拶運動の実施・挨拶上手な児童へのチケットの配布。

★これまでの短期間の挨拶運動ではなく、より挨拶上手を目指し全校を励ませるよう長期間実施したことで挨拶への意識が学校全体で高まった。



(7月) 平和Week/平和集会、平和絵本読み聞かせ(図書委員コラボ)

平和な南小をつくるために児童一人一人が行動してほしいという願いの共有。これまでの自分の言動を振り返り、みんなの笑顔のために何ができるか・どんな自分でありたいか異学年で一緒に考える機会の設定。【自己決定の場の提供、共感的な人間関係の育成】

★児童の思いや決意を紙に書いて掲示したり、平和集会の中で全児童が決意表明を行ったことで、身近な平和をつくっていくために動かなければという意識が高まった。



(2月) キラリさん発見プロジェクト

7月の活動を踏まえ、再度願いを全校で共有するため2月の生活目標を設定し取組を企画・実行。【自己存在感の感受】

◆ 成果(○)と課題及び今後に向けて(●)

- 6年生の姿を見て5年生が自分たちにできることを考え、呼びかけ合い、挨拶運動を実施するなど児童主体の活動が広がった。
- 全校児童アンケートで「縦割りで遊んだり活動したりするのは楽しい」と回答した児童の割合が「7月:94.8%→12月:95.4%」と向上した。
- 目的意識の薄い児童会活動にならないよう、今年度の振り返りや来年度への願いを5・6年児童が確実に共有し受け継ぐ機会をもつようにする。